

インフルエンザ予防接種説明書

以下の項目に該当する方は予防接種が受けられません。

- ①熱がある人、又は重篤な急性疾患にかかっている人
- ②インフルエンザ予防接種に含まれる成分でアナフィラキシー（重度のアレルギー反応）を起こしたことがある人
- ③今までにインフルエンザの予防接種を受けて2日以内に発熱、発しん、じんましんなどのアレルギーを思わせる異常が見られた人
- ④その他、医師が不適当な状態と判断した人。

以下の項目に該当する方はかかりつけ医とよく相談してください。

- ①心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気その他慢性の病気で治療を受けている人
- ②いままでにけいれんの既往のある人
- ③間質性肺炎、気管支喘息等の呼吸器系の病気で治療している人
- ④インフルエンザワクチンの成分又は鶏卵、鶏肉その他鶏由来のものに対してアレルギーを呈する恐れのある人

■ インフルエンザとは

インフルエンザウイルスに感染することによって起こる病気です。インフルエンザにかかった人が咳やくしゃみなどをするにより、ウイルスが空気中に広がり、それを吸い込むことによって感染します。典型的なインフルエンザの症状は、突然の高熱、頭痛、関節痛、筋肉痛などで、のどの痛み、咳、鼻水などもみられます。普通の風邪に比べて全身症状が強いのが特徴です。気管支炎や肺炎などを合併し、重症化することが多いのもインフルエンザの特徴です。

また、インフルエンザが流行すると、特に65歳以上の高齢者や慢性疾患患者で死亡率が普段より高くなるという点も普通の風邪とは異なります。

■ インフルエンザワクチンについて

インフルエンザワクチンは「不活化ワクチン」でインフルエンザウイルスから免疫（抗体）を作るのに必要な成分を取り出し、毒性をなくして作ったものです。インフルエンザワクチンにはインフルエンザへの感染を抑える働きはありませんが、発症を一定程度抑える効果や重症化を予防する効果があります。特に基礎疾患や高齢の方は重症化する可能性が高いと考えられています。

また、インフルエンザウイルスは毎年変化しながら流行するためワクチンもこれに対応するものが作られています。そのため、毎年流行が予測されるウイルスにあったワクチンを接種しておくことが有効です。

■ 予防接種による副反応

予防接種の注射の痕が、赤みを帯びたり、腫れたり、痛んだりすることがありますが、通常2～3日のうちに治ります。また、僅かながら熱が出たり、寒気がしたり、頭痛、全身のだるさなどがみられることもあります。通常2～3日のうちに治ります。また、接種後数日から2週間以内に発熱、頭痛、けいれん、運動障害、意識障害の症状が現れる等の報告があります。非常にまれですが、ショックやじんましん、呼吸困難などがあらわれることがあります。

■ 予防接種を受けた後の注意

1. 予防接種を受けた後30分間は、急な副反応がおこることがあります。医師とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう。
2. インフルエンザワクチンの副反応の多くは24時間以内に出現しますので、特にこの間は体調に注意しましょう。
3. 入浴は差し支えありませんが、注射した部位を強くこすることはやめましょう。
4. 接種当日は通常の生活をしてかまいませんが、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。